

平成 24 年 2 月 24 日
小笠原諸島世界自然遺産科学委員会

ホシツルランのウイルス感染について（報告）

関東地方環境事務所野生生物課

1. ホシツルランの現況

- 昭和 58 年に新種として発見され、母島にのみ生育。
発見当初から個体数は少なく、自生地への崩落、盗掘等により減少。
- 野生個体は 2 株のみ。過去に植栽した 55 株と実生が現存。(H23. 9 月)



2. ウイルス検査結果

- 2010 年 9 月に検査を実施し、12 個体中 9 個体から 2 種類のウイルスを検出（全て植栽株で野生個体からは検出されず）。
 - ・ CaIMMV：ひも状ウイルス（エビネマイルドモザイクウイルスの可能性が示唆される）9 個体
 - ・ CyMV：シンビジウムモザイクウイルス 1 個体（重複感染）
- 特に CyMV は、急激な衰弱も考えられることから、抜き取りなど早急な対応が必要との専門家の助言を得て、感染 1 個体を処分した。
- さらに残りの未検査個体（小さい株を除く）を CyMV 診断薬による簡易検査を行った結果、60 個体中 1 個体から検出され、感染個体を処分した。

自生地	9 月 検査数	感染数		10-12 月 検査数	感染数
		CaIMMV	CyMV		CyMV
乳房山（野生個体）	2	—	—	—	—
船木山第一植栽地	3	3	—	1 4	—
船木山第二植栽地	4	4	1	3 2	1
桑の木山植栽地	3	2	—	1 4	—
計	1 2	9	1	6 0	1

2 個体を処分

3. 当面の対応方針

(1) ひも状ウイルス

- 虫媒感染し、ホシツルランでは高い割合で感染していることから、感染個体の排除は困難。
- 一般的に、感染後数ヶ月から数年で発病し、葉や茎に斑紋が生じ、脱色して衰弱などの症状が現れるとされ、急激な衰弱は見られない。
- 以上から、注意深くモニタリングを行い、専門家の助言を得て対応する。

(2) シンビジウムモザイクウイルス

- 接触により感染することから、個体毎に手袋を変えるなど感染拡大防止を徹底する。ツアーガイド等関係者には個体に触れないよう周知徹底する。
- 母島内（特に船木山周辺）の他のラン科植物についても感染状況を把握し、専門家の助言を得て対応する。

